ＮＰＯ法人インテリジェンス研究所　第 21 回諜報研究会

第Ｉ部　第一回見学ツアー

日時；2017 年 11 月 25 日（土）

集合場所：馬場下交番前 13:00

見学コース：　１、国立感染症研究所（陸軍軍医学校跡）

２、国立国際医療センター（東京第一陸軍病院跡）

３、箱根山付近（防疫研究室・陸軍戸山学校・将校集会施設・軍楽隊野外音楽堂跡）

１、国立感染症研究所（陸軍軍医学校跡）

陸軍軍医学校は 1929 年にこの地に移転。この年昭和天皇が行幸。

731 部隊を率いた石井四郎が教官を務めていた。

２、国立国際医療センター（東京第一陸軍病院跡）

かつて千代田区隼町にあった陸軍本病院は 1929 年にこの地に移転、東京第一陸軍病院となる。

敗戦後は国立第一病院となり厚生省に移管。

現在、病院の一階にある資料室には、密接な関係にあった陸軍軍医学校の校長だった森鴎外の執務机が保存・展示されている。

戦後、石井四郎はこの付近で暮らし、この病院で亡くなった。

３、箱根山附近（防疫研究室・陸軍戸山学校・軍楽隊野外音楽堂跡）

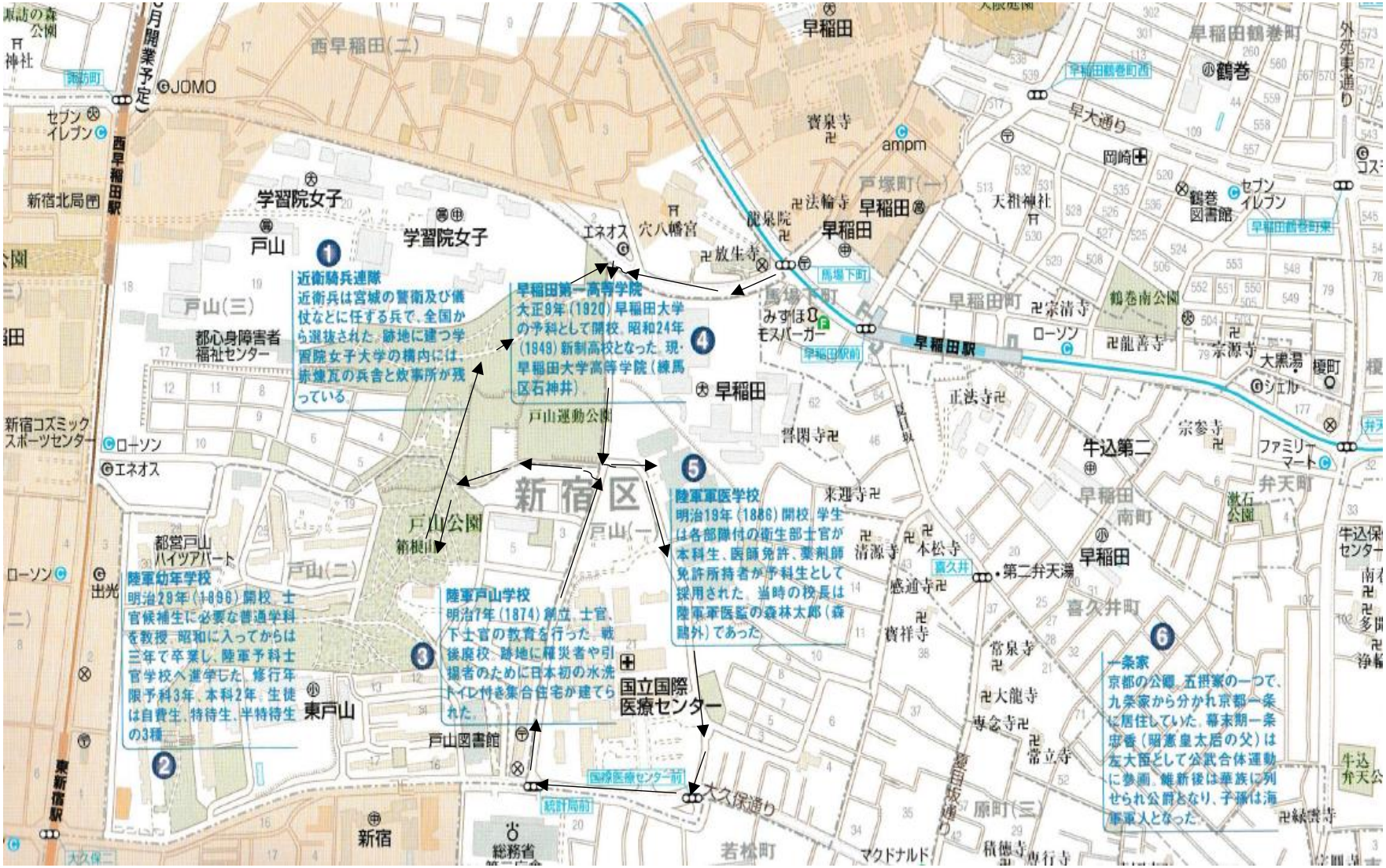
この地は元々は尾張徳川家の下屋敷

名園「戸山荘」として知られた。この山もその頃作られた。小田原の宿場町を再現、将軍をもてなしたこともあった

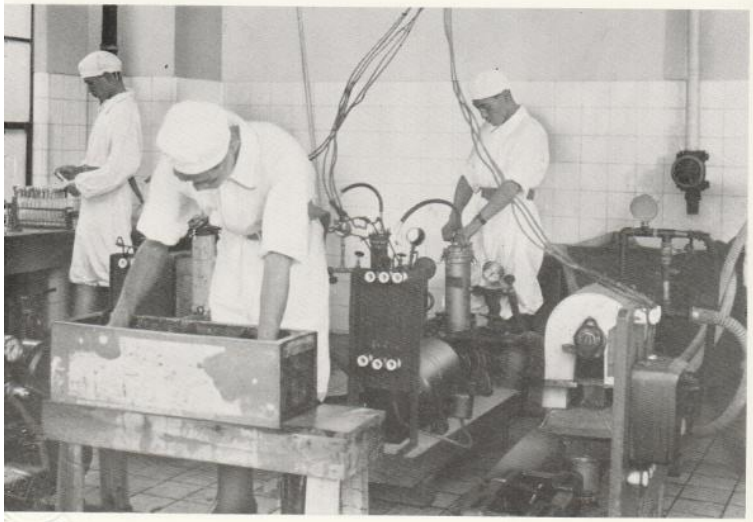
箱根山と呼ばれ始めたのは陸軍用地になってから

参考文献：黒田涼『大軍都・東京を歩く』朝日新聞出版、2014 年　　竹内正浩『写真と地図でめぐる軍都・東京』NHK 出版、2015 年

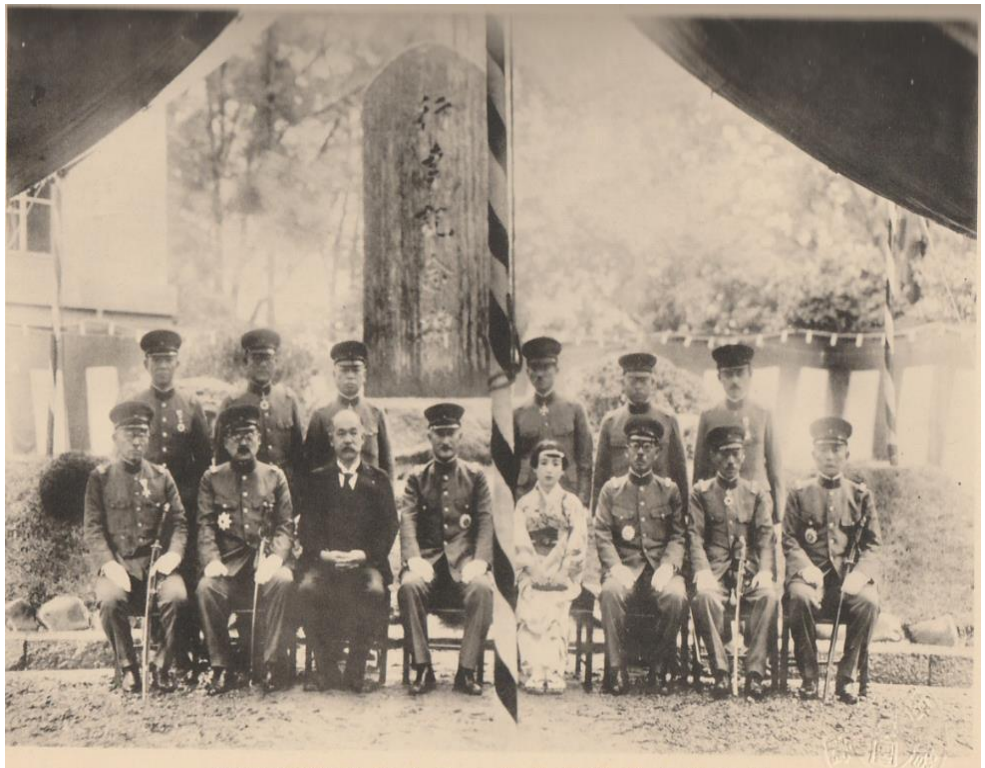
區 橋 淀
場馬田高至
馬場
學大田稻早
早大出版部
校學小卷鶴
院病崎岡
町 卷 鶴 田 稻 早
校學業實田稻早
社神祖天
校學中田稻早
院學際國田稻早
社神幡八穴
町 田 高
寺生放
隊聯兵騎衛近
町 下 場 馬
町 田 稻 早
寺義前
寺法正
寺開醫
院病野蘭
牛込氏墓
墓行素鹿山
寺巻塚
場擊射軍陸原ヶ山戸
院學等高一第田稻早
町 山 戸
校學医軍軍陸
寺迎來
寺慶浦
寺通勝
町 南 田 稻 早
校學小田稻早
女高込牛
房山石漱
國ラマテカ館事領
箱根山
隊樂軍
校學山戸軍陸
院病軍陸一第京東
院病書宝
寺祥宝
寺泉常
寺龍大
寺念專
寺立常
邸條一
町 井 久 喜
町 大 辨
校學年幼軍陸
駅保久大至
邸井三
署田稻早
寺雲緑
町 原
校學工砲軍陸


1
近衛騎兵連隊
近衛兵は宮城の警衛及び儀仗などに任ずる兵で、全国から選抜された。跡地に建つ学習院女子大学の構内には、赤煉瓦の兵舎と炊事所が残っている。
2
陸軍幼年学校
明治29年（1896）開校。士官候補生に必要な普通学科を教授。昭和に入ってからは三年で卒業し、陸軍予科士官学校へ進学した。修行年限予科3年、本科2年。生徒は自費生、特待生、半特待生の3種
3
陸軍戸山学校
明治7年（1874）創立。士官、下士官の教育を行った。戦後廃校。跡地に罹災者や引揚者のために日本初の水洗トイレ付き集合住宅が建てられた。
4
早稲田第一高等学院
大正9年（1920）早稲田大学の予科として開校。昭和24年（1949）新制高校となった。現・早稲田大学高等学院（練馬区石神井）
5
陸軍軍医学校
明治19年（1886）開校。学生は各部隊付の衛生部士官が本科生、医師免許、薬剤師免許所持者が予科生として採用された。当時の校長は陸軍軍医監の森林太郎（森鷗外）であった。
6
一条家
京都の公卿。五摂家の一つで、九条家から分かれ京都一条に居住していた。幕末期一条忠香（昭憲皇太后の父）は左大臣として公武合体運動に参画。維新後は華族に列せられ公爵となり、子孫は海軍軍人となった。
西早稲田(二)
早稲田
学習院女子
戸山
戸山(三)
都心身障害者福祉センター
戸山運動公園
新宿区
戸山公園
箱根山
都営戸山ハイツアパート
戸山(二)
東戸山
戸山図書館
国立国際医療センター
新宿
総務省
若松町
大久保通り
戸塚町(一)
馬場下町
早稲田駅
早稲田町
牛込第二
早稲田南町
喜久井町
原町(三)
弁天町
早稲田鶴巻町
鶴巻
鶴巻南公園
鶴巻図書館
早大通り
外苑東通り
西早稲田駅
東新宿駅
新宿北局
新宿コズミックスポーツセンター
穴八幡宮
放生寺
法輪寺
脱泉院
宗清寺
龍善寺
宗源寺
大黒湯
正法寺
誓願寺
来迎寺
清源寺
本松寺
感通寺
寶祥寺
常泉寺
大龍寺
専念寺
常立寺
積徳寺
宗參寺
ファミリーマート
激石公園
第二弁天湯
天祖神社
岡崎
セブンイレブン
ローソン
エネオス
JOMO
ampm
マクドナルド
シェル
出光

防疫研究室



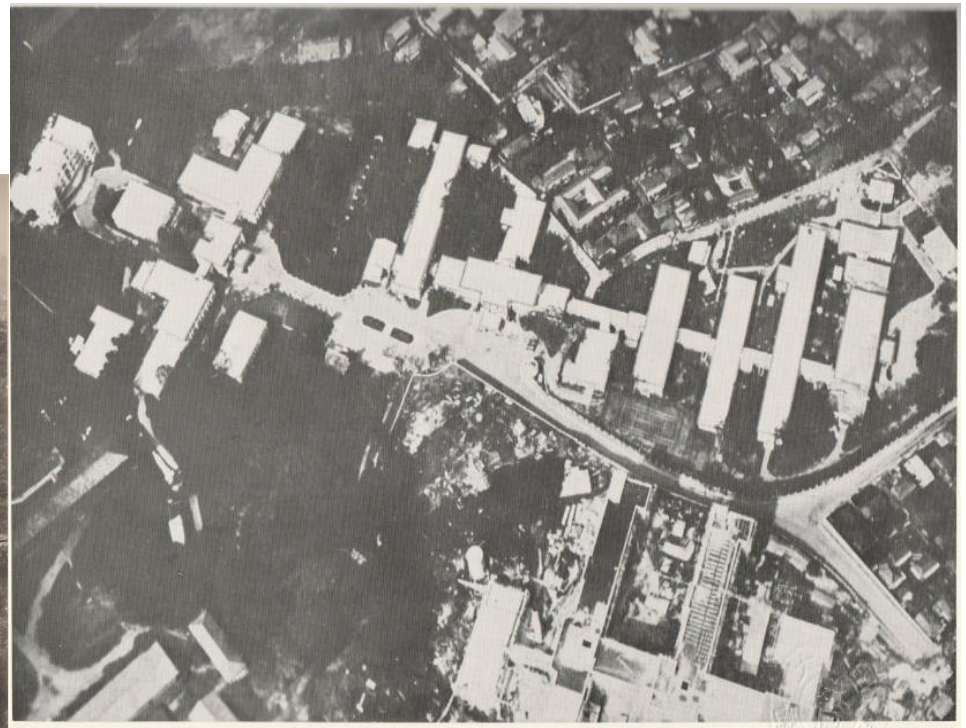
防疫研究室作業ノ一部



行幸記念碑除幕式後ノ記念撮影（昭和十年七月五日）

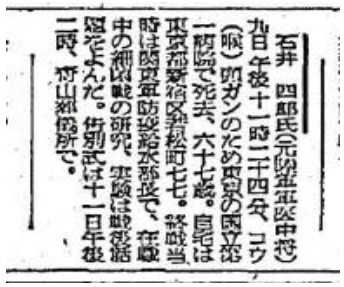
長桜井男　鐵令監醫軍師寺　〜右列ロ　大臣　正醫軍稲吉　長局務醫業小　麻令醫子篤石　〜左列ロ　臣大軍陸内寺　央中列前
正醫軍山宮小　長課生産塚屋　長課事醫和名　正醫軍内三　正醫軍野平　正醫軍内竹　列ロ右列後　監醫軍師寺　監剤薬南松

陸軍軍醫學校全景（昭和四年三月三十日撮影）



陸軍軍醫學校全景（昭和四年空中撮影）

前方ニ橋梁中ナルハ東京第一衛戍病院ナリ



石井四郎氏（元陸軍軍医中将）九日午後十一時二十四分、コウ（喉）頭ガンのため東京の国立第一病院で死去、六十七歳。自宅は東京都新宿区弁松町七七。葬儀当日は陸軍防疫給水部長で、在職中の細菌戦の研究、実験は戦後結果をよんだ。告別式は十一日午後二時、府山郷病院で。

1959 年 10 月 11 日　朝日新聞　朝刊

元看護師「終戦後、人体標本埋められた」

陸軍医学校跡地 初の発掘調査へ

1989年に大量の人骨が見つかった東京都新宿区戸山の旧陸軍軍医学校跡地で、厚生労働省は近く、初めての発掘調査に着手する。この場所を巡っては軍医学校に勤めていた元看護師が「終戦後、進駐軍に見つからないように人体標本が埋められた」と証言している。発掘調査を求めてきた市民団体によると、戦時中に中国で細菌や毒物の生体実験をしたとされる関東軍防疫給水部（七三一部隊）の日本における研究拠点があった場所にあたるという。

発掘調査のきっかけは、戦時中に軍医学校に勤務していた女性が2006年、「終戦後に軍医学校付近の少なくとも3カ所で解剖した遺体の標本が埋められた」と初めて具体的に証言したこと。それを受け、当時の川崎二郎厚労相が調査の実施を明言した。

女性が証言した場所は、都立戸山公園に隣接する国有地（①）、その約250㍍東に位置し、89年に100体分以上とみられる人骨が掘り出された場所（②）、その南約250㍍の公務員住宅付近（③）の3カ所。

今回の調査地点はそのうちの①。元看護師は戦後、付近に設けられた国立病院の職員から「人体標本を埋めた場所に病院職員用の木造宿舎を建て、監視を兼ねて住んだ」と聞かされたという。

現場には、その後に建てられた公務員住宅や駐車場があったが、10年3月末までに全員が退去。同11月半ばに建物などの解体工事が終了した。厚労省は近く省内手続きを終え、発掘調査を行う事業者を募集する方針だ。現場は旧尾張藩の屋敷跡で、埋蔵文化財保護の面から地元の新宿区や東京都とも協議する。③については、女性は「自分も人体標本を埋める作業を手伝った」と証言しており、国はこの地点でも調査を検討する。

市民団体「軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会」（代表・常石敬一神奈川大教授）によると、今回の調査場所は、七三一部隊を率いた石井四郎軍医中将が実質的に主管した軍医学校防疫研究室の敷地の一部という。89年の人骨発見場所も軍医学校跡地だが、防疫研究室跡地とはかけで隔たっていた。七三一部隊の研究で知られる常石代表は「89年の人骨は発見場所からみて、七三一部隊とは関係なかったと考えられるが、今回は七三一部隊との関連が強いものが出てくる可能性がある」と話す。（武井宏之）

軍医学校跡地の人骨

1989年、現在の国立感染症研究所の建設工事中、地下約2㍍から頭蓋骨（ずがいこつ）や大腿骨（だいたいこつ）など大量の人骨が掘り出された。新宿区が専門家に鑑定を依頼した結果、「日本人とは異質とみられる骨」「ドリル、のこぎりによる加工の跡」があることがわかった。厚労省は軍医学校関係者ら368人に聞き取り調査やアンケートを実施。2001年、人骨は軍医学校にあった標本や医学教育用に集められた死体の一部との見解を示し、明治期以降に戦場から集められた戦死者が含まれていた可能性があるとした。調査に対して、「七三一部隊から送られてきたもの」との回答も一部あったが、「七三一部隊との関連は明らかにできなかった」と結論づけた。

2011年1月6日　朝日新聞　夕刊